

和歌山県紀北地方にみられる伝統的な方言使用の減少について —若年層における大阪方言の影響の拡大—

（『言語の研究』4号）
2018年7月

森西カンナ

1. はじめに

和歌山県の方言には「～やして」や「行こら」など標準語と異なる語彙的・文法的な形式がさまざまなが、現在、和歌山市内（紀北地方）在住の若年層ではそのような伝統的な和歌山方言はあまり使われていないように思われる。筆者（1995年、和歌山市出身）自身、意識することなく和歌山方言を使用することは少なく、祖母や親など家族間での会話で和歌山方言を使用する方がその場面にふさわしいと感じるときに使うことがあるくらいである。しかし、首都圏で生活していると、筆者の方言語彙の使用を東部方言話者から指摘されるという経験がしばしばある。和歌山方言であるという自覚を伴う方言語彙以外は大阪方言やメディアでの関西方言などの表現を無自覚に使用しているのではないかと内省することもある。例を挙げると、以下の①～③では左項が和歌山方言語彙、右項が関西方言語彙である。筆者が普段使用している方言語彙は右項ではないかと考えられる。

〈例〉①「そらそうと」——「そういや」・「そういえば」

②「明日から休みやして」——「明日から休みやで」

③「そこにあらいしょ」——「そこにあるやん」

NHK放送文化研究所（1997）の調査に「地方なまりがでるのは恥ずかしいか」という質問項目があるが、近畿圏の中でも特に和歌山は「恥ずかしい」と答えた人が平均よりも多かったという。

本稿は、和歌山県紀北地方出身で和歌山県紀北地方在住の10代～60代を調査対象として、和歌山方言に対してどのような印象をもっているか、また、和歌山方言の使用意識がどのようなものであるかについて調査し、伝統的な和歌山方言の使用が大阪方言からどのような影響を受けているかについて考察することを目的とする。

2. 和歌山方言について

和歌山方言の区画について確認しておく。和歌山県の方言は区画上、紀北方言・紀中方言・紀南方言の三つに分かれる（【図1】参照）。紀北方言はさらに和歌山市方言・那賀方言・伊都方言に分けられる（村内1982）。また、徳川・真田（1986）によると、紀北方言の特徴は以下の三

点である。

まず、紀ノ川流域では、中流域に古い語が残存する。中流域と比較すると下流域（和歌山市）や上流域（橋本市）の方が相対的に早く新しい語を取り入れる傾向があり、そのために中流域は両方のいわば吹きだまりとなることが多い。第二に、老年層と若年層では、語の分布模様に大きな相違がある。老年層に見られたことばの地域差は若年層において、多くの場合、変容し消滅している。第三に、ことばの地域差はまた、場面が上位（公的）になるにつれて薄まっている。上位場面では共通語形が多く出現するようになる。なお、紀ノ川流域の特に上流域では、上位場面に大阪市街地で使われることば（地域共通語）が取り入れられることが少なくない。



【図1 和歌山県の市町村】⁽¹⁾

3. 先行研究

3-1. 和歌山県の方言意識について

NHK放送文化研究所（1997）の47都道府県ごとに16歳以上の900人、全国で合計42300人を対象に行われた「全国県民意識調査」（1996年調査）では、和歌山についての調査結果が次のように述べられている。和歌山県では「地方なまりが出るのは恥ずかしい」という人が全国平均に比して多い。また、「土地のことばが好き」「土地のことばを残してゆきたい」と回答した人は少なく、方言に対する愛着が弱いように見受けられる。自分の方言を「恥ずかしい」とする人が全国平均より高いところは、近畿地方では和歌山県のほかにはない（【表2】を参照）。さらに「土地のことばが好き」という人は、比較的紀南に多く、和歌山市では少ない。また、大阪府の中でも「土地のことばが好き」・「土地のことばを残してゆきたい」という意見は大阪市より府南部のほうが少ない。

以下の【表1】は、調査項目の中で和歌山県に特徴のある結果が見られたとされるものである。【表1】にある「検定」はNHK放送文化研究所（1997）による。【表2】は、筆者がNHK放送文化研究所（1997）の調査結果のデータから近畿のみを抜粋し作成したものである。

【表1 和歌山県民の意識の特徴】

質問項目	全国	和歌山	検定
隣近所の人とのつき合いは多い	51.5	64.3	++
今の生活に（非常に+やや）満足だ	82.2	85.7	+
おだやかで変化のない生活がしたい	69.9	74.1	+
自分が主張すべきことがあっても、不利になる時はだまっていることが多い	44.5	49.4	+
国の政治に一番関心がある	43.3	38.4	-
税金があがっても、社会福祉をもっと充実してほしい	55.8	61.2	++
他人にウソをつくことはどうしても許せない悪いことだ	67.7	76.3	++
お金というものは、しばしば人間を堕落させるきたないものだ	52.2	62.9	++
地方のなまりが出るのは恥ずかしい	13	21.1	++
この土地のことが好き	61.2	55	--
*検定：各県の%が全国の%と比べて、信頼度99%で多い場合は「++」、信頼度95%で多い場合は「+」、信頼度99%で少ない場合は「--」、信頼度95%で少ない場合は「-」、差のない場合は空欄で表示した。(検定の種類については記載なし。)			

【表2 近畿地方：地方なまりが出るのは恥ずかしい（96年）】

	%	検定	順位
全国	13		
大阪	8.4	--	45
京都	8.7	--	43
奈良	9.4	--	42
兵庫	10.4		40
滋賀	12.2		36
和歌山	21.1	++	6

また、「全国県民意識調査」はこれまでに2回行われている。NHK放送文化研究所（1997）の1996年の調査、NHK放送世論調査所（1979）の1978年の調査より「あなたは、地方なまりが出るのは恥ずかしいことだと思いますか。」という質問に「1.はい」と答えた調査結果のデータから筆者がそれぞれの上位を抜粋したものが【表3・4】である。1996年の調査と1978年の調査とでは質問文に一部違いがあった（【表4】下の注記を参照）。また検定方法についても異なっていたため、1996年の調査を参考に【表4】を作成した。

【表3 地方なまりが出るのは恥ずかしい(96年)】 【表4 地方なまりが出るのは恥ずかしい(78年)】

	%	検定	順位
全国	13		
福井	26.9	++	1
茨城	26.7	++	2
秋田	24.1	++	3
栃木	23.9	++	4
青森	22.8	++	5
和歌山	21.1	++	6

	%	検定	順位
全国	14.8		
沖縄	25.9	++	1
福島	25.1	++	2
鹿児島	25.1	++	3
和歌山	23.3	++	4
秋田	23.2	++	5

*質問文：標準語が話せなかったり、地方なまりが出るのは恥ずかしいことだと思いますか。

【表3】、【表4】のいずれにおいても和歌山県が上位にあがっている。和歌山県以外では東日本に偏しており、それらの地域では特徴的な「なまり」や、「共通語」のアクセントとの顕著な相違があることで知られている。近畿地方では和歌山県のみが上位にあがっているが、この調査によると、近畿地方でも和歌山県では、方言を「恥ずかしい」と感じる傾向のあることが窺える。

3-2. 近畿地方の方言意識について

田中（2011）の全国方言意識調査（2010年調査）では、「方言」と「共通語」についての意識の地域差を調査している。47都道府県すべての居住者から回答を得ているが、ここでは居住地とは別に質問した15歳までに一番長く生活した地域を「出身地」としてみており、出身地による差は以下の「出身地ブロック」別に検討されている。（ ）内の数値は回答を得られた人数である。

北海道（66）、東北（128）、北関東（85）、首都圏（273）、甲信越（72）、北陸（44）、東海（144）、

近畿（198）、中国（89）、四国（53）、九州（169）、沖縄（20）、海外（4）、わからない（2）

まず「出身地の『方言』のことが好きですか、嫌いですか」という質問に関して、約6割が好きであると回答し、NHK放送文化研究所（1997）の「地元のことを好きかどうか」という質問の結果と比較すると大きな差はないが、「沖縄」では「好き」の回答率が伸びているという。

以下、近畿地方に特徴があるもののみを挙げると、「共通語」についての好き嫌いについては、「好き」53.7%・「嫌い」2.9%・「どちらでもない」41.5%という結果となり、「嫌い」という回答者が多いのは「近畿」（9.6%）・「四国」（7.5%）、「どちらでもない」という回答者は「近畿」（51.5%）・「甲信越」（52.8%）・「九州」（48.5%）である。また、「方言」を多く使用することが期待される3つの私的な場面において、どの程度「出身地方言」を使用するかについても調査している。3つの私的な場面とは、「家族」・「同じ出身地の友人（同郷友人）」・「異なる出身地の友人（異郷友人）」であり、それぞれ親しい間柄の人を話し相手としたものである。全体の結果では「家族」・「同郷友人」に対しては7割弱が方言を使用するのに対し、「異郷友人」に対しては5割弱まで下がる結果となっている。「家族」・「同郷友人」に対しての方言の使用率はどちらも西部方言では高く、東部方言では低いという傾向がみられる。「近畿」では「異郷友人」に対しても「出身地方言」の使用率が高く、「出身地方言」が好きであり、「共通語」の使用率・好感度はともに低い。また「方言」と「共通語」の使い分け意識は低く、「方言」で通す意思が強いと述べられている。【表1】～【表4】で示される和歌山県民の和歌山方言への意識と比較すると、顕著な相違があるように思われる。

4. 和歌山方言に対する意識調査

4-1. 調査の目的

本稿では、先行研究を踏まえた上で、10代・20代において和歌山方言の使用に対してどのような意識をもっているか、また、和歌山方言の使用を「恥ずかしい」と感じているとすれば、その理由は何であるかを明らかにすることを目的とし、和歌山方言話者の方言に対する意識や、方言

の使用意識について調査する。

4-2. 調査対象と方法

調査対象は、和歌山県紀北地方出身で現在和歌山市に住む10代から60代の男女、計92名。実際の調査の有効回答数は10代15名（男7：女8）、20代22名（男6：女16）、30代12名（男4：女8）、40代14名（男2：女12）、50代19名（男12：女7）、60代10名（男5：女5）である。調査方法はアンケート調査である。和歌山方言に対する意識やイメージ（大阪方言、標準語と比較）、和歌山方言の使用意識について尋ねることとした。

4-3. アンケートの設問の構成

アンケートの設問1は和歌山方言に対して持っている意識調査の項目、設問2はアクセントについての意識調査の項目、設問3は実際にどのような方言を使用しているかという意識調査の項目、設問4は自由記述欄とした。

設問1は先行研究に挙げたものを参考に作成し、設問3は岸江・中井（1999）と岸江・中井・鳥谷（2001）の年代別調査結果のデータを参考に筆者自身と使用する方言が異なるものを中心に、アンケートを作成した。

【表5 アンケートの構成】

	設問				参考 文献	備考 筆者の回答	
	番号	アンケートの項目	和歌山方言	大阪方言			標準語
語法	25	おっきすぎら	おっきすぎら	おっきすぎやろ	大きすぎるよ	A	△おっきすぎや ろ
	26	あかな	あかな	あかんやろ	だめだろ	A	△あかんやろ
	27	行こら	行こら	行こ	行こうよ	A	△行こ
	28	行くでー	行くでー	行くねん	行くよ	A	△行くねん
	29	行くねん	行くでー	行くねん	行くよ	A	○
	30	休みやして	休みやして	休みやで	休みだよ		△休みやで
	31	降っちゃーら	降っちゃーら	降ってるで	降ってるよ	A	△降ってるで
	32	ええわいしょ	ええわいしょ	ええやん	いいね		△ええやん
	33	見せちゃろか	見せちゃろか	見せたらか	見せてあげようか	A	△見せたらか
	37	よーゆわよー	よーゆわよー	よーゆうわ	よく言うよ		△よーゆうわ
	38	ある	ある	おる	いる		×おる
	39	音な	音な	音や	音？		△音や
	41	だえよ？	だえよ？	だれや？	誰だ？		△だれや？
	42	すら	すら	する	する		△する
	43	この服は小さいので <u>着ることができない</u>	着られへん、 着やれやん	着られへん	着られない	A	着れやん
	44	この子はまだ小さいので <u>一人で服を着ることができない</u>	よー着やん、 着れやん	着られへん	着られない	A	着られへん

	設問				参考 文献	備考 筆者の回答
	番号	アンケートの項目	和歌山方言	大阪方言	標準語	
語彙	34	おもしろい	おもしろい	おもしろい	おもしろい	A・B △おもしろい
	35	おもしろい	おもしろい	おもしろい	おもしろい	A・B ○
	36	皮ごし	皮ごし	皮ごと	皮ごと	A △皮ごと
	40	わらかす	わらわす	わらかす	笑わせる	B ○
	45	物に足をぶつけたときに紫色になることを何と言いますか。	にえる	あざ、 青タン	青あざ	B にえる、青タン
	46	蚊に血を吸われることを蚊にどうされたと言いますか。	かまれる	くわれる	刺される	B かまれる
	47	運動会のかけっこで最後を走っている人を何と言いますか。	べべ、 べった	べべ、 べった、 どべ	びり	A ベベ

【表5】は、設問3の質問項目ごとの表である。「番号」はアンケートの間の番号であり、「アンケートの項目」は問の内容である。問25～42はアンケートの項目に示した方言を使用するかどうか質問した（調査内容、調査結果は5－2．参照）。「和歌山方言」「大阪方言」「共通語」それぞれの対応関係については、東條（1954）、牧村（1979）を参考にしつつ筆者が判断して作成した。文脈上の自然さを重視したため、文法的・意味的に厳密に対応しない場合もある。「参考文献」の記号は、A：岸江・中井（1999）・B：岸江・中井・鳥谷（2001）であることを示す。なお、参考文献欄が空白箇所のは筆者が独自に追加した設問である。

5. 調査結果と考察

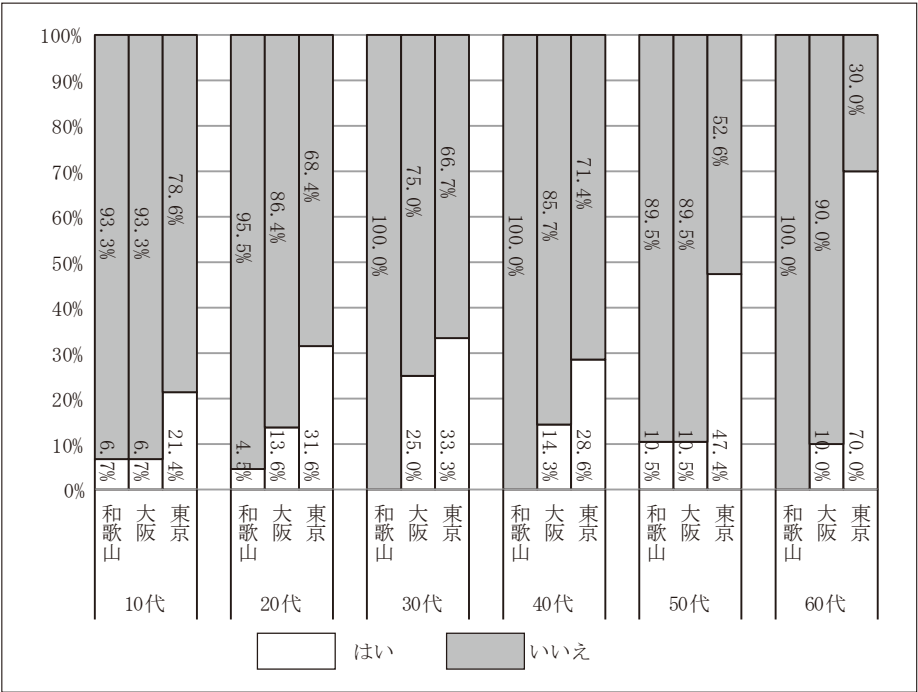
本節のグラフはすべてアンケート調査で得た回答の比率を年代ごとに示している。また、記入漏れや二重回答があった場合は回答項目ごとに除いているため、項目によって全体の数が異なる場合がある。さらに本節の図について選択されなかった選択肢の割合（値が0.0%）はグラフ上から省いた。また設問1の間8、9と設問2に関して、大阪の人、東京の人と会話をしたことがなく「いいえ」と回答してしまったという意見を複数人から得たため、今回は個別に分析せず、参考資料の扱いとした。

5－1. 方言に対する意識について

5－1－1. 和歌山方言に対する意識について

アンケートの設問1では和歌山方言に対する意識を和歌山・大阪・東京の3つの場所ごとに場面設定をして調査した。まず、以下の【図2】は設問1の間1～3の「和歌山方言が出るのは恥ずかしいか」という項目を年代別に分析したデータである。和歌山県で和歌山方言が出ることにについてはほとんどが「いいえ」と回答している。次に「大阪で和歌山方言が出るのは恥ずかしい」

という回答の割合は30代が和歌山では0.0%であったが、25.0%と最も高くなった。また、「東京で方言が出るのは恥ずかしい」という回答の割合は年代が上がるにつれて高くなり、むしろ、10代・20代のほうが方言使用に対してプラス評価の意識を持っていると考えられる。



【図2 ○○にいるときに和歌山方言が出るのは恥ずかしいか】

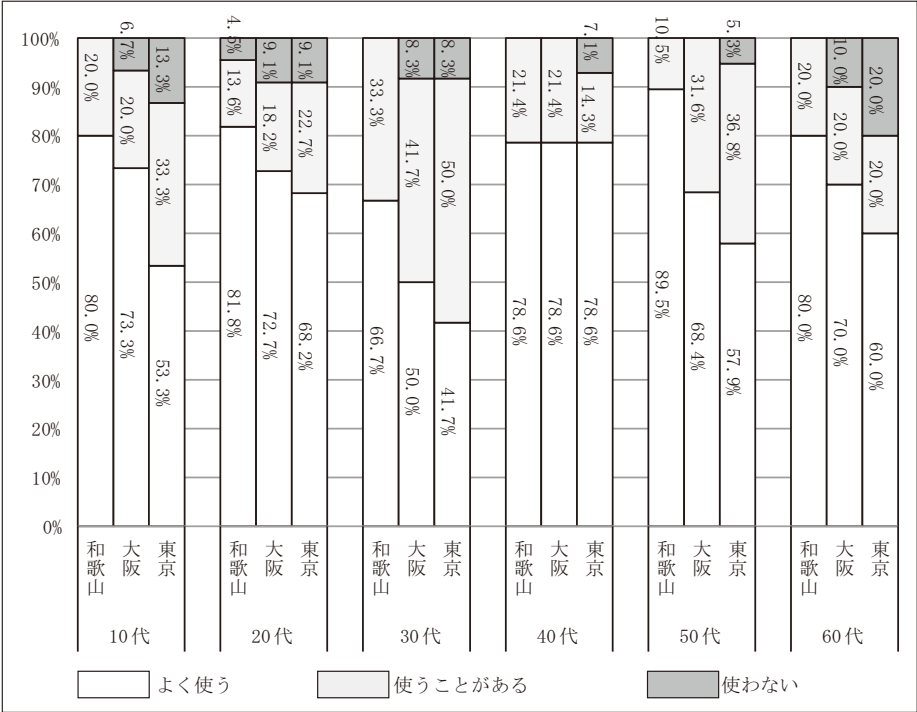
5-1-2. 和歌山方言の使用意識について

設問1の問4～7では和歌山方言をどのような相手（家族・同じ出身地の友人・大阪出身の友人・東京出身の友人）に対して、また、どの地域での場面（和歌山・大阪・東京）で使用するかについての意識調査を行った。調査では「よく使う・使うことがある・使わない」の選択肢から一つのみを選択してもらった。以下の【図3～6】は順に問ごとの年代別の結果である。

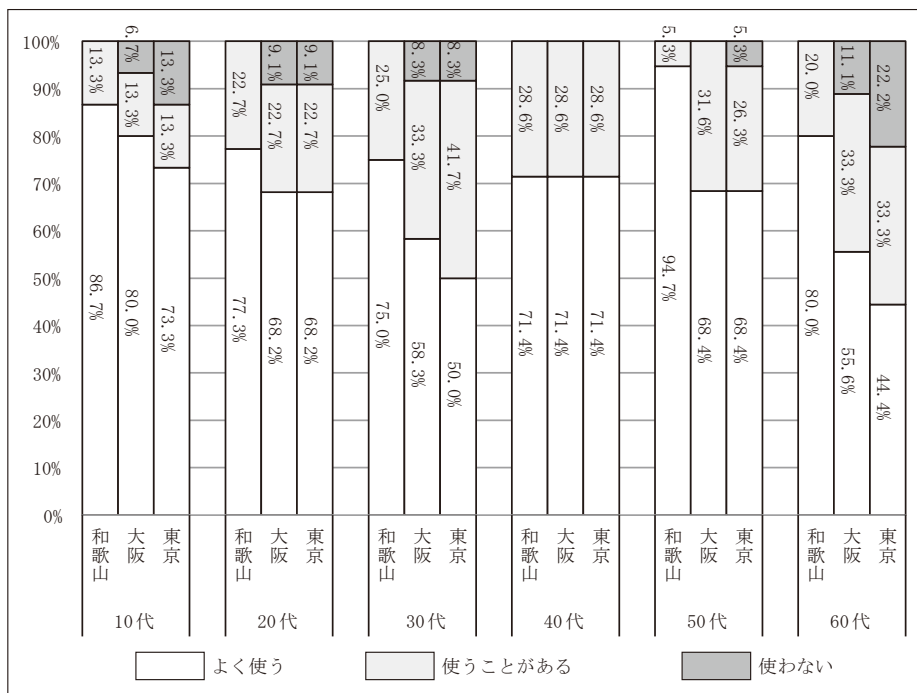
まず、【図3】は家族と会話をする時に場面ごとに比較すると、和歌山より大阪、大阪より東京においてあまり和歌山方言を使用していないという傾向になった。40代のみが和歌山と大阪のどちらの場所でも結果は変わらなかった。

和歌山でのデータを基準に10代と20代に注目すると、10代では和歌山にいる時より大阪にいる時に和歌山方言を「使わない」という回答の割合が6.7%増加し、「よく使う」が6.7%減少した。さらに和歌山より東京にいる時に和歌山方言を「使わない」という回答の割合が13.3%増加し、「よ

く使う」が26.7%減少した。20代では和歌山より大阪にいる時に和歌山方言を「使わない」という回答の割合が4.5%増加し、「よく使う」が9.1%減少した。一方、東京にいる時では和歌山にいる時より和歌山方言を「使わない」という回答の割合が4.5%増加し、「よく使う」は13.6%減少した。これらより、10代では東京にいる時に和歌山方言をあまり使用しない人が大きく増加している。一方、20代では和歌山より大阪でよく使う人は10代よりも大きく減少したものの大阪と東京では10代での増加の割合と比べ、大きな差は見られなかった。

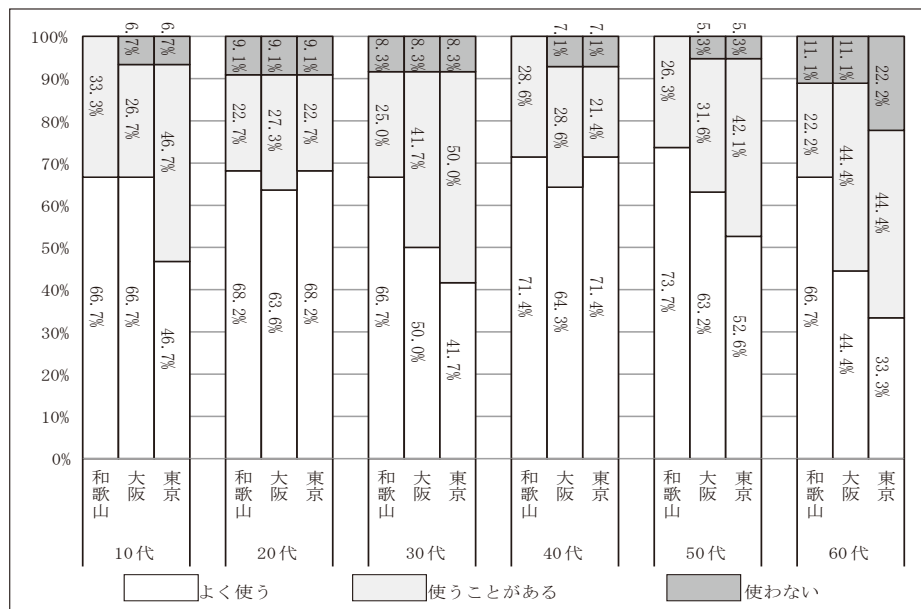


【図3 ○○にいるときに家族との会話で和歌山方言を使用するか】

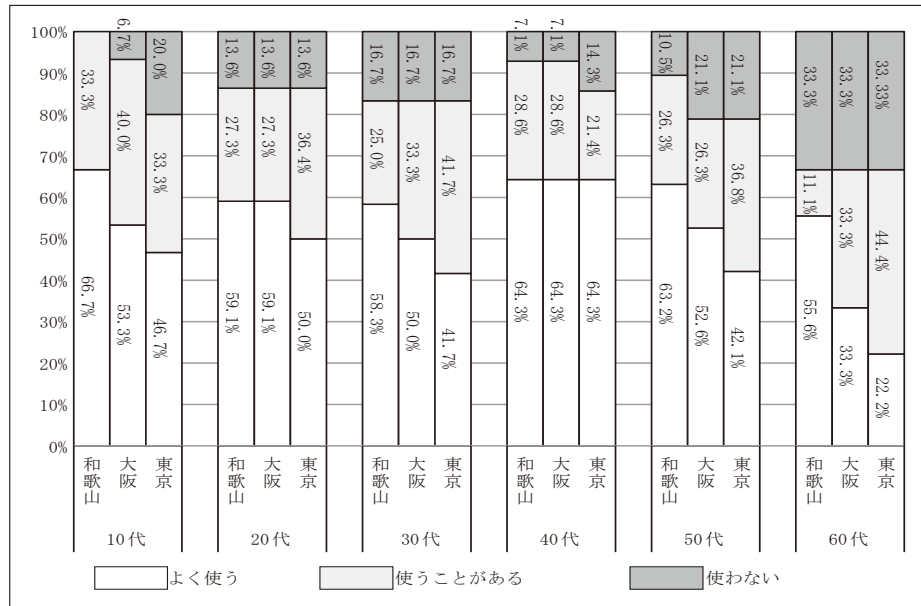


【図4 ○○にいたるときに同じ出身地の友人との会話で和歌山方言を使用するか】

【図4】は、同じ出身地の友人と会話をする時の場面ごとの結果である。和歌山での値を基準に比較すると、大阪で方言をよく使うという回答は40代を除き、年代があがるにつれて減少幅が大きくなっている。40代では場面による差異は全く見られなかった。10代では和歌山より大阪にいる時に「使わない」が6.7%増加したため、「よく使う」が6.7%減少した。さらに和歌山より東京にいる時に「使わない」が13.3%増加したため、「よく使う」が13.3%減少した。20代では大阪にいる時と東京にいる時の回答結果は同じであり、和歌山にいる時より「使わない」がどちらも9.1%増加したため「よく使う」が9.1%減少した。



【図5 ○○にいるときに大阪出身の友人との会話で和歌山方言を使用するか】



【図6 ○○にいるときに東京出身の友人との会話で和歌山方言を使用するか】

【図5】は大阪出身の友人と会話をするときと仮定した時の場面ごとの結果である。和歌山でよく使うと回答した割合はすべての年代で70%前後となった。和歌山でのデータを基準に10代と20代に注目すると、10代では大阪にいる時に「使わない」が6.7%増加し、「よく使う」は変化がなかった。しかし、東京にいと仮定した時に「使うことがある」が6.7%増加し、「よく使う」が20.0%と大きく減少した。また、20代では大阪にいる時に「よく使う」が4.5%の減少とあまり変化がなく、東京にいと仮定した時は和歌山にいる時と全く変化がなかった。

【図6】は東京出身の友人と会話をするときと仮定した時の場面ごとの結果である。和歌山にいる時を基準に10代と20代に注目すると、10代では大阪にいる時に「使わない」が6.7%増加し、「よく使う」は13.3%減少した。一方、東京にいる時に「使わない」は20.0%増加し、「よく使う」が20.0%減少した。また、20代では大阪にいる時と変化がなく、東京にいる時は「使うことがある」が9.1%増加し、「よく使う」が9.1%減少した。

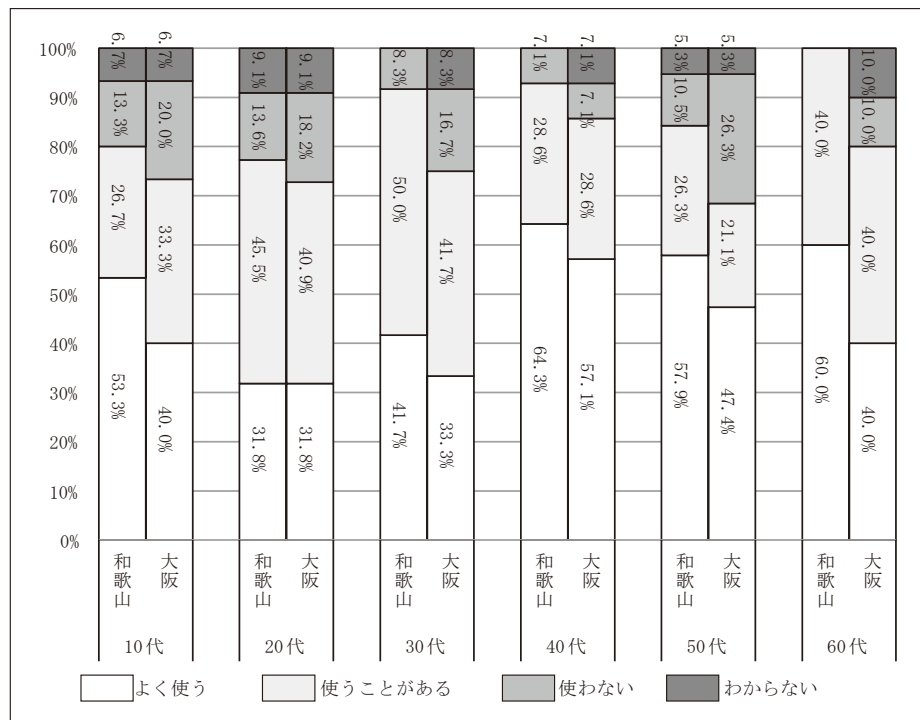
【図3～6】について、和歌山にいと仮定した時、会話する相手の相違によって比較すると、10代では家族との会話で「よく使う」が80.0%であり、同じ出身地の友人との会話のほうがさらに「よく使う」が6.7%多い。一方、同じ出身地の友人との会話より大阪出身の友人との会話のほうが「よく使う」が20.0%減少した。大阪出身の友人との会話と東京出身の友人との会話での結果は同じであった。20代では家族との会話で「よく使う」が81.8%であり、同じ出身地の友人との会話のほうが「よく使う」が4.6%少なく、「使わない」が4.6%少ない。また、同じ出身地の友人、大阪出身の友人、東京出身の友人との会話では順に「よく使う」と回答した割合が減少している。

また【図3～6】にあるとおり、当初の予測とは異なり、若年層と年配で結果の差は大きいものではなかったが、10代と20代との間では差異があった。10代は日常の会話と比べると20代よりも東京にいる時に方言を使わない傾向にあり、20代は大阪出身の人に対して和歌山、東京で話すより、大阪で話す場合に方言を使用する割合がやや減少した。また、東京出身の人に対して方言を使う割合は和歌山、大阪では同じ結果となり、東京で話す場合に減少した。従って、20代は話す場所より、話す相手によって方言を使用する割合が変化するものと考えられる。

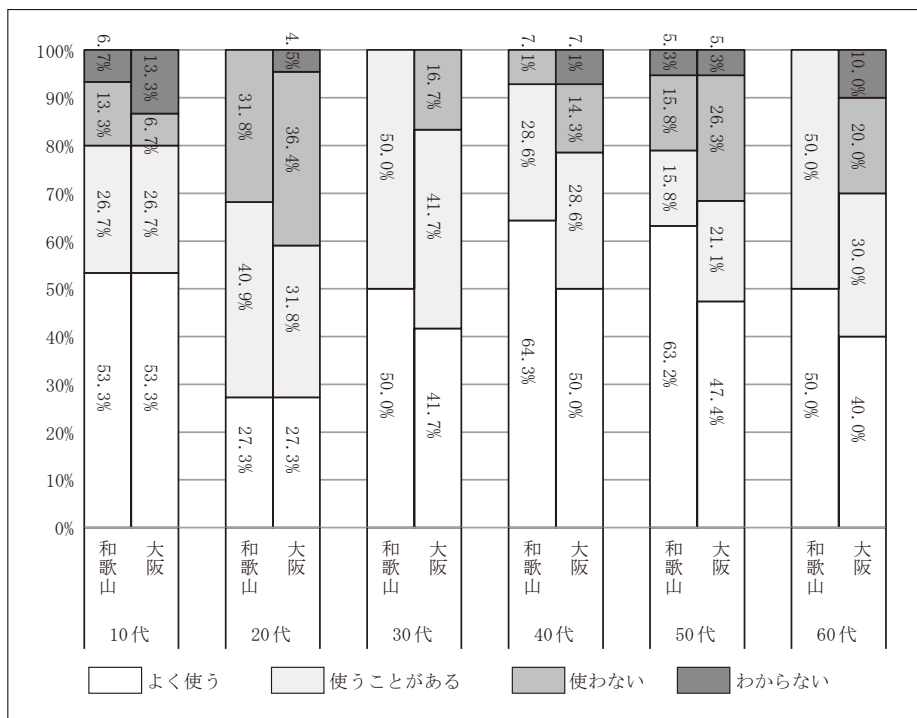
次に設問1の間10～13では場所（和歌山・大阪）に加えて周囲の状況（スーパー・デパート）の相違によって和歌山方言の使用の割合が変化するかと調査した。調査では「よく使う、使うことがある、使わない、わからない」の選択肢から一つのみを選択してもらった。10代のデータでは間10～13をすべて「わからない」と選択した回答が1つあったが、他の問題では間に沿った回答をしていたため今回はデータに含めることとした。

【図7】では和歌山のスーパーで店員に対して60代で「よく使う」が60.0%、「使うことがある」が40.0%と最も高かったが、その他の年代では「よく使う」「使うことがある」をあわせて80%前後とあまり年代差はなかった。【図8】では和歌山のデパートで「よく使う」「使うことがある」という回答が年配で多く、20代の「よく使う」「使うことがある」の割合が一番低くなった。大阪のデパートでも20代が一番「よく使う」「使うことがある」の割合が低く、合計で59.1%となった。また、10代・20代では、【図7】の和歌山の場面の場合を基準に大阪の場面の場合と比べると、

20代では「使うことがある」が4.5%減少するが、「使わない」が4.5%の増加と他の年代と比べて変化が少なく、和歌山のスーパーと大阪のスーパーで和歌山方言の使用意識があまり変わらないようである。【図8】でも和歌山の場面の場合を基準に大阪の場面の場合と比べると10代・20代での使用意識の変化が小さい。特に10代では和歌山のデパートの場面と大阪のデパートの場面での和歌山方言の使用意識の割合の変化が少なく、「よく使う」・「使うことがある」は同じ割合、「使わない」が6.7%減少し、「わからない」が6.7%増加したのみであった。

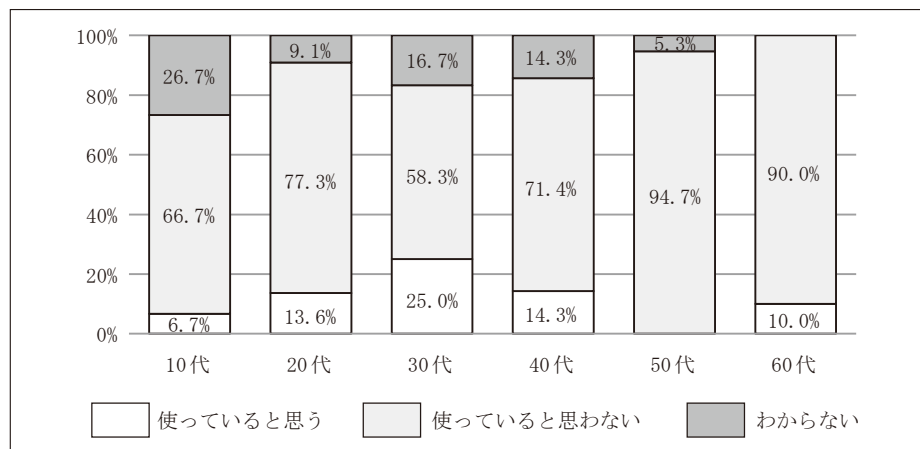


【図7 ○○のスーパーで店員に和歌山方言を使用するか】

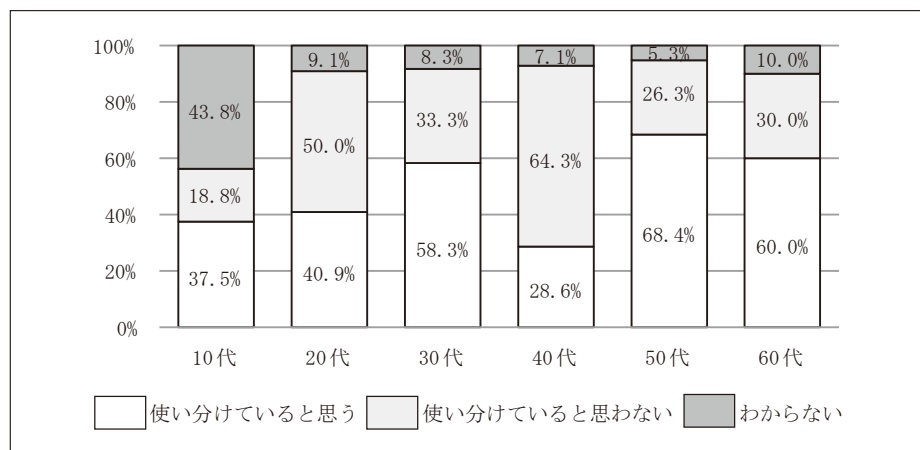


【図8 ○○のデパートで店員に和歌山方言を使用するか】

5-1-1. の【図2】では有意に差は出なかったが、【図7・8】によると20代は大阪に対して他の年代よりも恥ずかしいと感じる傾向があるのではないかと考える。10代では東京に対して恥ずかしいと感じる傾向があると考えられる。また、10代のインフォーマントの中にはよその土地で暮らしたことのある人は15人中1人のみで、20代のインフォーマントではその中でも東京で暮らしたことのある人が22人中3人であった⁽⁴⁾。さらに両親の出身地でも10代のインフォーマントに他府県出身の両親はおらず、それに比べて20代では埼玉県や愛知県と様々であった。このことから、個人的な他地域による方言の影響による結果ではないと考えられる。また、普段の生活で標準語を使っていると思うか、方言と標準語を使い分けしていると思うかという問14、15でも他の世代と著しく異なる結果ではなかった（【図9・10】参照）。



【図9 普段の生活で標準語を使っているか】

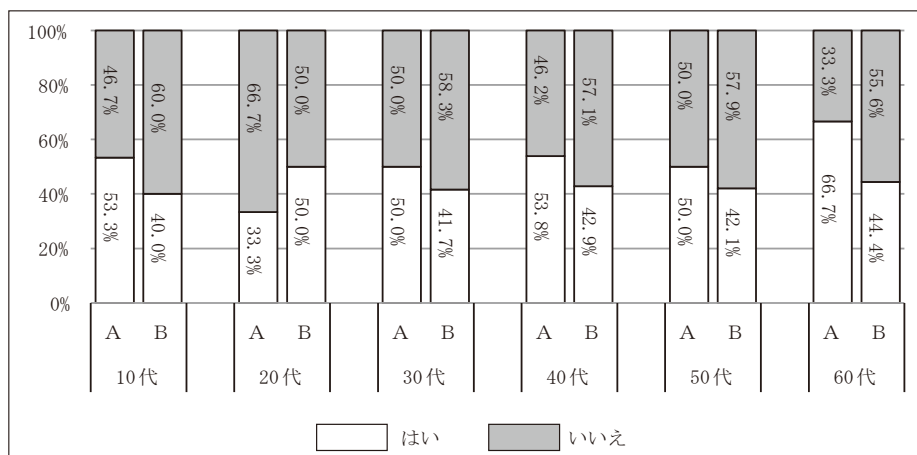


【図10 方言と標準語を使い分けているか】

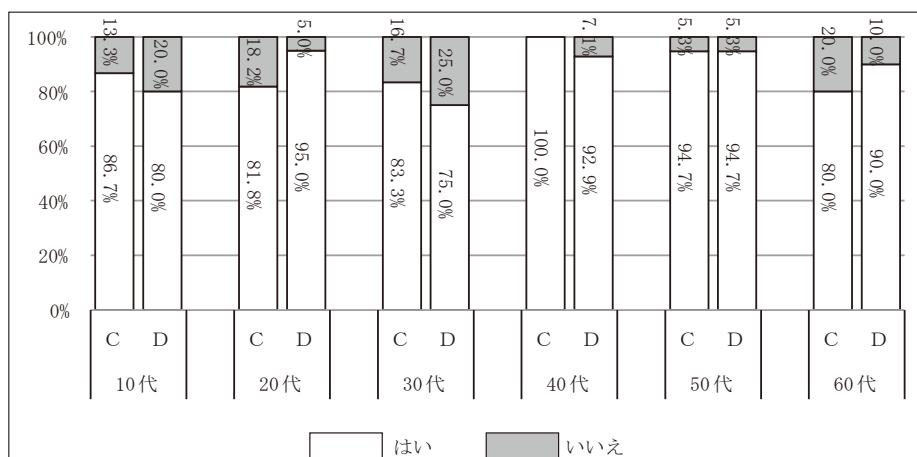
5-1-3. 種々の方言に対する意識について

設問1の間16～20では標準語・関西方言・和歌山方言に対する意識調査を行った。間16～20は「はい・いいえ」の選択肢から一つのみを選択し、選択した回答により理由を複数回答可の①～⑤の中から選択させる選択式アンケートである。⁽⁶⁾以下の【図11・12】は設問1の間16、17、19、20の回答結果の割合である。【図11】のAは「標準語が好きか」という項目、Bは「標準語を使うことに抵抗はあるか」という項目である。【図11】をみると、「標準語が好き」という回答の割合は20代が一番低く33.3%、60代が一番高く66.7%となった。また、標準語を自分が使うことに

抵抗があるという回答の割合は20代が一番高く50.0%、10代が一番低く40.0%となった。



【図11 標準語に対する意識】



【図12 和歌山方言に対する意識】

問18の「関西方言は好きか」という設問では、10代のみ「いいえ」という回答が13.3%（15人中2人。理由はそれぞれ「①乱暴な感じがするから」、「⑤特に理由はない」）あったが、その他はすべての世代で「はい」という回答であり、概ね関西方言は好きであるという結果となった。

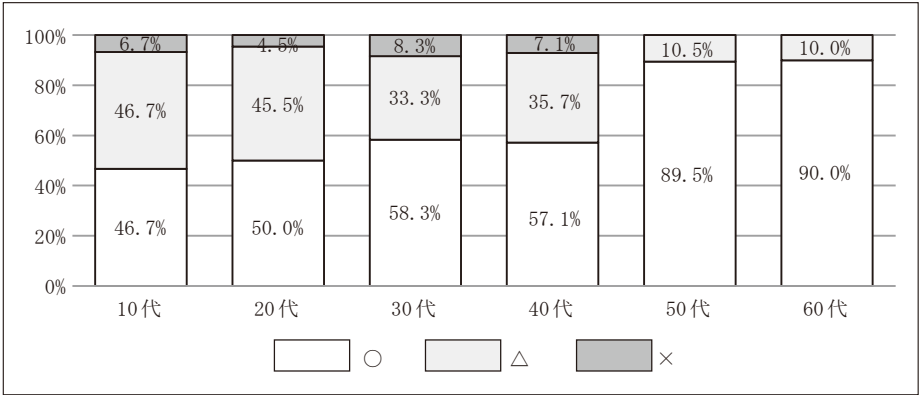
【図12】のCは「和歌山方言は好きか」という項目、Dは「和歌山方言を残してゆきたいと思うか」という項目である。【図12】より和歌山方言は好きと回答した割合は40代・50代で高かった。

また、「和歌山方言を残していきたい」と回答した割合はすべての年代で75%以上と高かったが10代・30代で低く、20代で95.0%と一番高かった。関西方言が好きという割合よりは低いが、和歌山方言が好き、残したいという割合も全体的に高い。

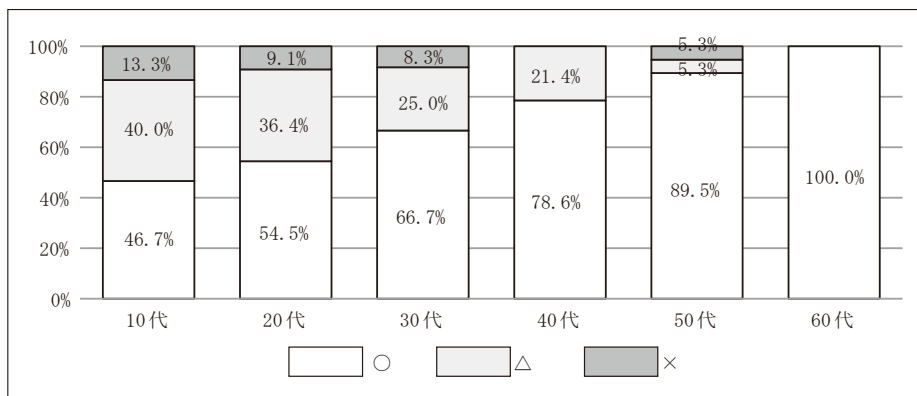
5－2. 和歌山方言語彙の使用意識について

設問3の問25～42ではどのような和歌山方言を使用しているかという意識調査をした。各例文の語彙について「○：使う、△：聞くことはあるが使わない、×：聞いたこともない」の選択肢から一つのみを選択してもらい、その中で○と回答した人はそれぞれ誰に対して使うことができるか（「a.親しい年上の人、b.親しい同級生、c.親しい年下、d.親しくない年上の人、e.親しくない同級生、f.親しくない年下の人」）を複数回答可の選択式アンケート⁽⁸⁾とし、△・×と回答した人はどのような言い方をするか記述してもらった自由記述アンケートとした。以下の図では○の回答、△の回答、×の回答をパーセントで示した。自由記述の結果についての考察は、東條（1954）・牧村（1979）を参考にした。また、△回答を選択した場合は、方言語彙が理解語彙であっても使用語彙ではなく、方言語彙の使用を避けている可能性が考えられるため、本節では△回答に注目して考察した。

まず、【図13（25）】、【図14（36）】より年代があがるにつれて△回答の割合が減少し、○回答の割合が増加している。さらに【図13（25）】では「おっきすぎら」を使用しない場合、⁽⁹⁾「おっきいわ」や「大きすぎる」などが多かったが、10代では「おっきいやら」、20代では「でかすぎやら」や「大きすぎやら」という回答が見られたため和歌山方言形式ではなく、大阪方言形式を使用する傾向もあると考えられる。

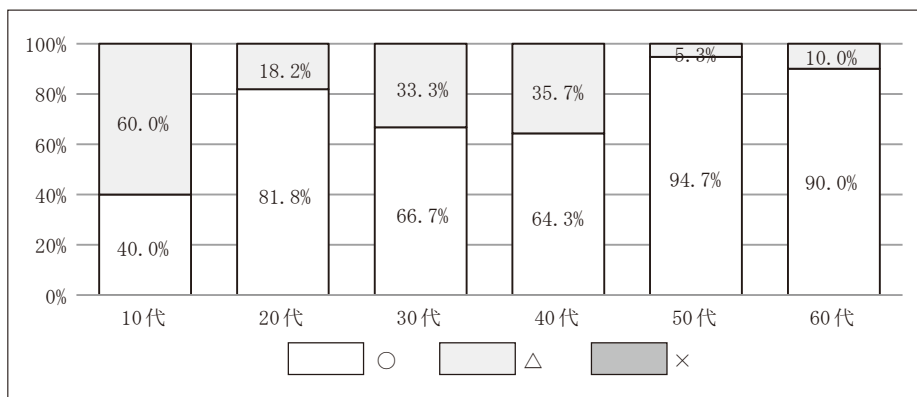


【図13（25） おっきすぎら⁽¹⁰⁾】

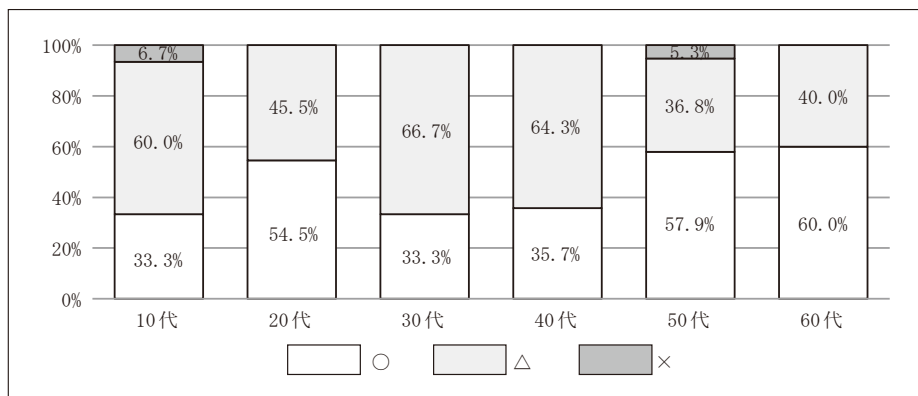


【図14 (36) 皮ごし】

【図15 (27)】では10代で一番△回答が多かったが、予想に反し、20代では○回答が大幅に増え、81.8%となった。問27-1の「誰に対して使えるか」ではすべての年代の○回答の中で、「b.親しい同級生」(以下b)、「c.親しい年下の人」(以下c)のみを選択する割合が高かった。「a.親しい年上の人」(以下a)、「d.親しくない年上の人」(以下d)、「e.親しくない同級生」(以下e)、「f.親しくない年下の人」(以下f)は50代以外の年代で選択した人がほとんどいなかった。50代では18人中aが8人、dが4人、eが7人、fは7人となった。a、d～fを選択した年代別の割合は40代、20代、60代の順に低かった。よって20代では他の年代よりも○回答において親しい同級生、親しい年下のみに対して使うことが多かった。また、「行こら」は「いこらブログ」という和歌山のブログやSNS上で目にすることもある和歌山の代表的な方言形式となっているため、20代での使用が多いのではないかと考えられる。



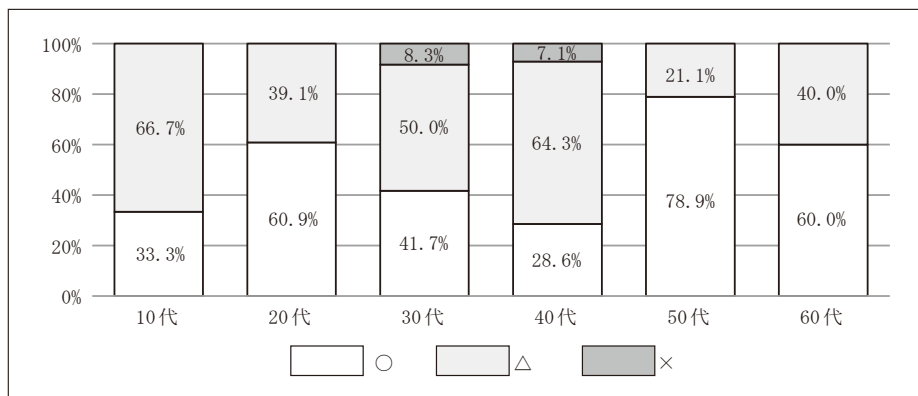
【図15 (27) 行こら】



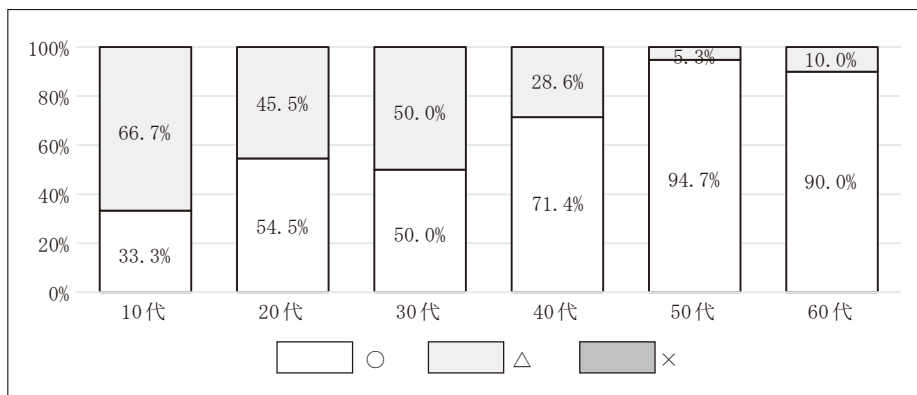
【図16 (37) よーゆわよー】

【図16 (37)】、【図17 (42)】では10代・30代・40代の△回答が多かったが、20代では○回答が順に54.6%、60.9%とどちらも半分以上の人が和歌山方言語彙を使用している結果となった。

【図16 (37)】で20代の○回答の割合が高い理由として、【図15 (27)】の「行こら」と同じく、SNSで目にする方言であったり、「よーゆわよー」という方言をテーマにした歌があったりとするため、代表的な和歌山方言であると認識し、使用している可能性が考えられる。

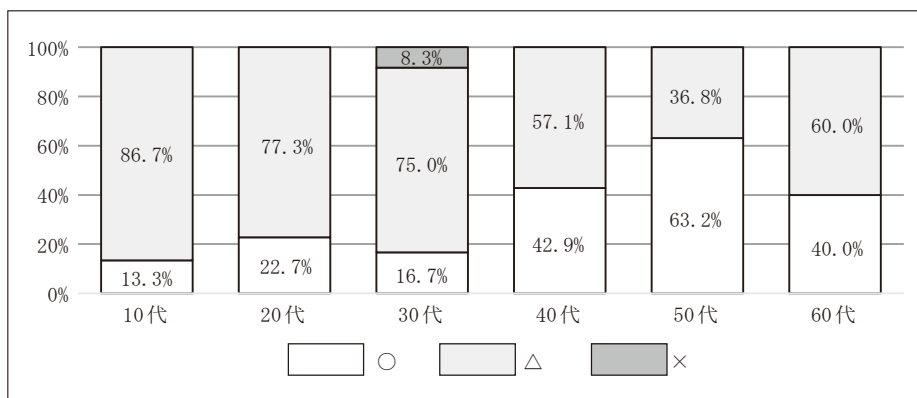


【図17 (42) すら】

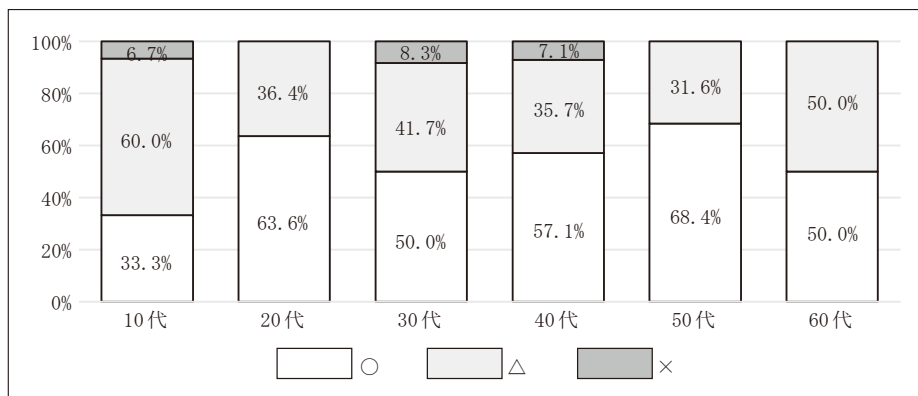


【図18 (26) あかな】

【図18 (26)】より10代から30代で△回答が他の年代より比較的多い傾向となった。【図19 (30)】でも同じく、10代から30代で△回答が他の年代と比べて多く、75.0%以上となった。△、×と答えた人は問30-2で「休みよ」・「休みなんよ」という回答が多かったが20代では他の世代では見られない「休みやん」が4人と多く、20代・30代では「休みやねん」、10代・20代・30代では「休みやで」という回答が見られたため、大阪方言形式と考えられるものが多かった。10代から30代では「～やして」という言い方を知っているが使用しない傾向にあると考えられる。「休みやいしょ (10代・30代・40代)」・「休みやいて (50代)」などの伝統的な和歌山方言形式と考えられるものを使用している回答もあった。



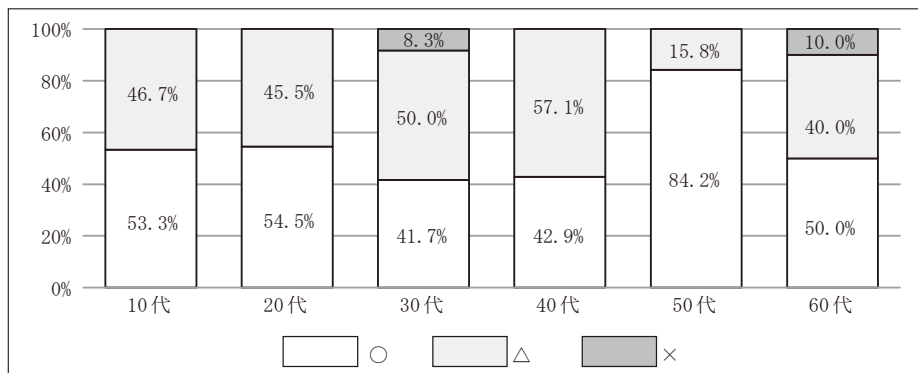
【図19 (30) 休みやして】



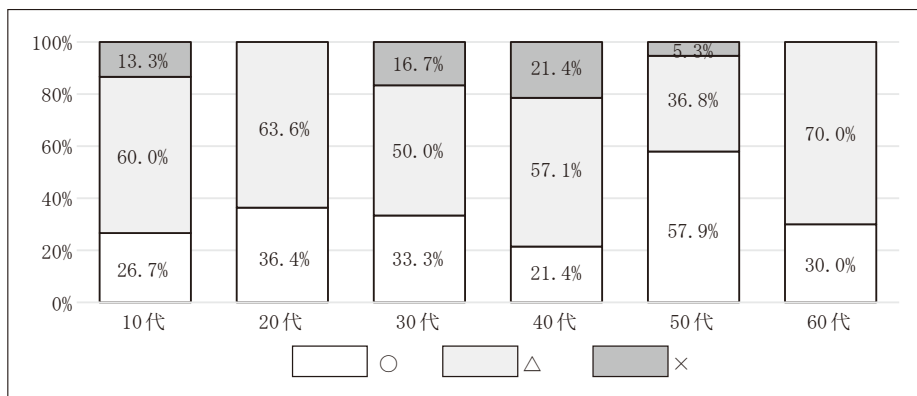
【図20 (31) 降っちゃーら】

【図20 (31)】より「降っちゃーら」は年代ごとにあまり傾向は出ず、予測と異なり、20代の○回答が63.6%と多かった。しかし、問31-1では20代のみc回答が少なく、ほとんどがbのみを選択する回答となり、親しい同級生との会話でのみ使用する傾向があると考えられる⁽¹³⁾。問31-2では「降っちゃうわ (30代)」、「降っちゃうでー (60代)」、「降ってら (10代・30代・40代・50代)」と伝統的な和歌山方言形式であると考えられるものが年配に多く見られた。20代では「降ってるやん」と回答した人が4人と多く、「降ってんで」という大阪方言語彙と考えられるものもあった⁽¹⁴⁾。

【図21 (33)】・【図22 (41)】では特に50代の○回答が多く、他の世代では△回答が40.0%～57.1%と約半数が聞いたことはあるが使用していない結果となった。【図22 (41)】では50代以外の△回答の割合が高く、ほとんどの世代で方言語彙を知っているが使わないという結果となった。

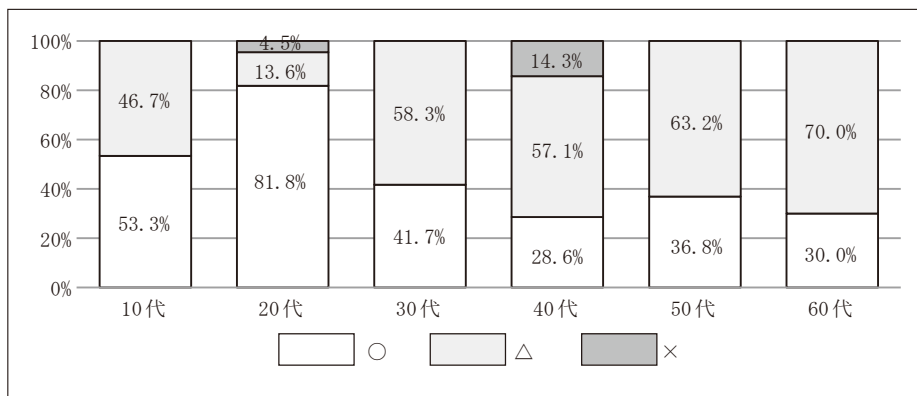


【図21 (33) 見せちゃろか】

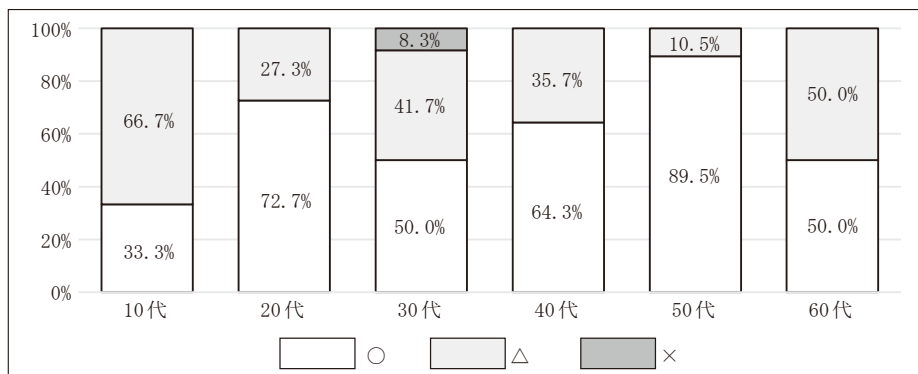


【図22 (41) だえよ】

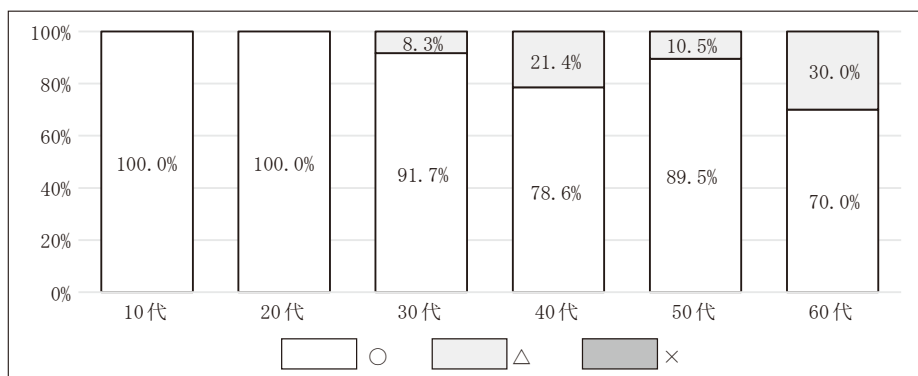
【図23 (29)】～【26 (40)】をみると、「行くねん」や「おもしろい」・「わらかす」などの大阪方言語彙は10代～30代でほとんどの人が使用している。10代では和歌山方言語彙の「おもしろい」の○回答が33.3%と一番少なく、66.7%が△回答と知っているが使わない割合が多い。20代・50代では「おもしろい」と「おもしろい」のどちらも使用する割合が多い。10代・20代では○回答が100.0%と特に使用率が高かった。



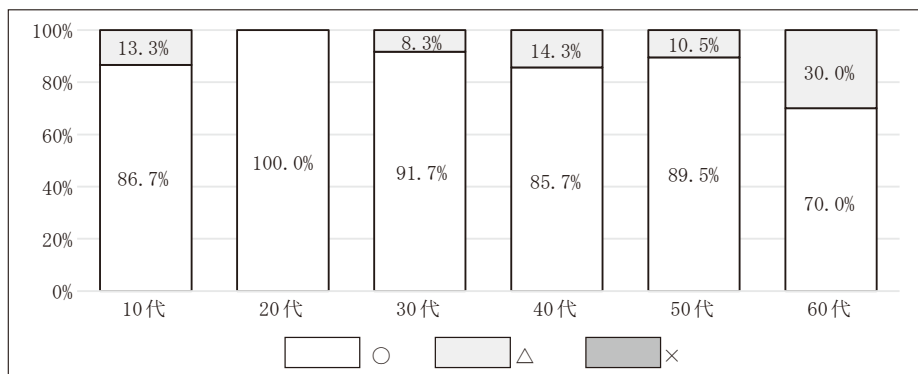
【図23 (29) 行くねん】



【図24 (34) おもしろい】



【図25 (35) おもしろい】



【図26 (40) わらかす】

問43～47は複数回答可の自由記述問題であり、状況に適した方言形式を答えてもらうアンケートである。問43・44では状況可能（この服は小さいので着ることができない）、能力可能（この子はまだ小さいので一人で服を着ることができない）について調査した。問43、44のどちらにおいてもすべての年代で「着れやん」・「着られへん」が多かった。問44では年代が上がるごとに「よー着やん」という回答が多くなった。また、30代では「よー着れやん」という誤用ではないかと考えられる回答が一例あった。⁽¹⁵⁾次に、問45では「あざ」という回答もいくつか見られたが、和歌山方言語彙の「にえる」を使用している割合が高かった。⁽¹⁶⁾問46では「刺される」と和歌山方言語彙の「かまれる」の両方を使用している割合、⁽¹⁷⁾問47では「びり」、「べべ」を使用している割合が高かった。⁽¹⁸⁾

6. 考察

「和歌山方言を恥ずかしいと感じるか」という質問では先行研究とは異なり、恥ずかしいという回答はあまり見られなかったが、若い世代は和歌山方言ではなく大阪方言を既に使用しているため、自身の方言を恥ずかしいとは感じていないのではないかとと思われる。

一方、5-2では、20代の○回答が多く、和歌山方言を使用するという結果がいくつかあったが、伝統的な和歌山方言の代表的なものは残り、親しい人との間柄で主に使用するという親近感がわくツールとして、あるいは、方言キャラの意図で使用しているとも考えられる。さらに、和歌山方言を使用している、40代～60代の年代層と使い方が違うという可能性も考えられる。

「行こら」という和歌山方言に関して、70歳の女性の方から、「行こら」は男性が使用する言葉であると口頭での指摘があった。そこで、50代の方に確認したところ、そのようなことは初めて聞いたという意見であり、アンケート集計結果を見ても男女間で結果の差は見られなかったため、今回は「行こら」を考察対象から除外しなかった。しかし、70代の方と50代の方で和歌山方言の使い方が違う可能性があるということより、その方言語彙を使用するという結果が出て他の世代と比べると使い方が異なるのではないかと考えた。今後の展開としてはそれぞれの方言語彙の使い方について調査する必要があると考える。

また、10代では特に、ほとんどの和歌山方言を回避する傾向があるとわかった。さらに5-1-3では20代と比べ、「標準語が好きではない・標準語を話すことに抵抗がある」という回答の割合が少ない結果となった。この結果は10代では20代よりも年齢が低いうちからスマートフォンを使用していると考えられ、メディアの影響によって、標準語と大阪方言とをより身近なものとして捉えている可能性がある。

まとめ

今回の調査対象である和歌山県紀北地方では、アンケートで調査した範囲では、例示した和歌山方言形式について、年代が下がるごとに、「聞いたことはあるが使わない」と回答する傾向の

あることがわかった。このことから、若年層では、伝統的な和歌山方言形式の使用が減少している可能性が高いものと考えられる。また、大阪方言形式を使用するという割合でも40代から60代より10代から30代で割合が多いとわかった。若年層において、伝統的な和歌山方言形式よりも、大阪方言形式を使用する傾向のあることがわかった。

【注】

- (1) 和歌山県、「和歌山の市町村」より引用

(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/japanese/cities/index.html>) 20180205閲覧

- (2) 和歌山市、岩出市、紀の川市、橋本市、海南市、海草郡、伊都郡が紀北地方にあたる。
- (3) 実際のアンケート回収数は117名であったが、今回の調査では和歌山県紀北出身の回答に絞り計92名となった。アンケート調査に付属したフェイスシートによって有効回答か否かを判断した。
- (4) 具体的な居住期間、場所は10代：15歳から18歳まで神奈川県横須賀市、20代：18歳から23歳まで東京都渋谷区、19歳から23歳まで東京都八王子市、18歳から20歳まで東京都である。
- (5) アンケートでの質問文で標準語と示したため、本稿では共通語ではなく標準語と表記する。アンケートは様々な年代の方に実施したため、混乱を避けるためイメージしやすい標準語と表記し、問を作成した。
- (6) 選択肢⑤では「⑤その他_____」という選択肢になっているため、一部自由記述である。①～④の選択肢の内容は問ごとに異なる。
- (7) 問28、32、38、39は今回、考察対象外とする。理由については以下のとおりである。問28の「行くでー」に関して、問題文では相手に声をかけている状況であったが、関西方言の「行くで」を呼びかけるように言う言い方か、和歌山方言の質問に答えるような「行くでえー」という言い方なのかどちらかわからなかったという意見があったため。問32の「ええわいしょ」では年配の方複数名から男性が使う方言であると指摘があったため。問38について、「ある」は本来丁寧な表現として使用することはほとんどないが今回、問題文で「先生、いま学校にあるかい。という言い方をしますか。」と表示していたため、先生に直接学校にいかどうか尋ねているのか、友人などに先生が学校にいるか確認しているのかわからないという意見や、先生に尋ねていると解釈したので使い方がおかしいと思ったという意見があったため。問39の「何の音な？」に関して、「何の音なん？」という言い方と見間違えて回答してしまったという意見があったため。
- (8) この問では50代でa～fすべてを選択した回答がいくつかあったが「和歌山方言には敬語はなく、失礼な言葉でない限り誰に対しても使える」という意見を得たため、今回は分析対象に含んだ。また、40代では問36「皮ごし」以外の問でd～fを選択した人がいなかった。
- (9) 以下は問25－2の年代別の集計結果である。()内の数字は人数を表す。人数が1人であった場合は人数の表示を省略した。「無効回答」は回答に記入漏れなどの不備があったことを表す。

10代：大きい、大きすぎ (2)、大きすぎる、おっきいやろ、おっきすぎ、おっきすぎるわ、無効回答

20代：大きすぎ、大きすぎる、大きすぎるわ (2)、大きすぎやろ、大きすぎやわ、大きすぎるやん、でかすぎる (2)、でかすぎやろ、無効回答

30代：大きすぎるわ、おっきいわ、おっきすぎる、大きすぎるな、おっきすぎるわ

40代：大きすぎる (4)、大きすぎるわ (2)

50代：大きすぎる、おっきいわ

60代：大きすぎる

- (10) 本節の図表の図表番号のあとの括弧内の数字はアンケートの間番号である。例えば、【図13 (25)】は、アンケートの間25の分析結果である。

- (11) 以下は問27－1の年代別の集計結果である。[] 内の数字は問27－1に回答した年代別の人数であり、() 内の数字はそれぞれの選択肢を選択した人数である。複数回答可であるため、() 内の合計は[] の数字とは異なる。

10代 [6] : a (1)、b (6)、c (5)、d (1)、e (2)、f (3)

20代 [18] : a (1)、b (18)、c (15)、d (0)、e (2)、f (3)

30代 [8] : a (1)、b (7)、c (8)、d (0)、e (2)、f (2)

40代 [9] : a (0)、b (8)、c (6)、d (0)、e (0)、f (0)

50代 [18] : a (8)、b (18)、c (18)、d (4)、e (7)、f (7)

60代 [9] : a (2)、b (9)、c (8)、d (1)、e (1)、f (1)

- (12) 以下は問30－2の年代別の集計結果である。表記については注8を参照。

10代：休み、休みや (2)、休みやって、休みやで (5)、休みやな、休みやん (2)、休みよ

20代：休み、休みだ、休みなんよー (4)、休みやいしょ、休みやで (2)、休みやねん (3)、休みやん (4)、休みやんか

30代：休みなんよ (2)、休みやー、休みやいしょ、休みやで (3)、休みやねん、休みよ (2)

40代：休み、休みだから、休みなんよ (3)、休みやいしょ、休みやわ、休みよ

50代：お休みなんよ、休みなんよ、休みやいて、休みやで、休みやな、休みやわ、休みよ

60代：お休みなんよ、休みです、休みやでえー、休みやね、休みよ (2)

- (13) 以下は問31－1の年代別の集計結果である。表記については注11を参照。

10代 [5] : a (2)、b (5)、c (4)、d (1)、e (2)、f (2)

20代 [14] : a (3)、b (14)、c (2)、d (0)、e (2)、f (2)

30代 [6] : a (1)、b (5)、c (6)、d (1)、e (2)、f (2)

40代 [8] : a (2)、b (8)、c (7)、d (0)、e (0)、f (0)

50代 [13] : a (7)、b (13)、c (13)、d (3)、e (5)、f (5)

60代 [5] : a (4)、b (5)、c (5)、d (2)、e (2)、f (2)

- (14) 以下は問31－2の年代別の集計結果である。表記については注8を参照。

10代：降ってら、降ってる (3)、降ってるー、降ってるな (2)、降ってるやん、降ってる

わ (2)

20代：降ってる、降ってるなー、降ってるやん (4)、降ってるわ、降ってんで

30代：降っちゃうわ (2)、降ってら、降ってるわ (4)、降っとる

40代：降ってら、降ってる、降ってるよ、降ってるわ (3)

50代：降ってら (4)、降ってるわ (2)

60代：雨やでえー、降っちゃうでー、降ってる、降ってるわ (2)、降ってるわあ

※30代で「降ってるわ、降っちゃうわ」「降ってるわ、降っとる」、60代で「降ってる、雨やでえー」と複数回答あり。

- (15) 以下は順に問43、44の年代別の集計結果である。表記については注8を参照。

問43の年代別の集計結果

10代：着られへん (2)、着れない、着れへん、着れへんわ、着れやん (9)、着れやんわ

20代：着られへん (3)、着れへん、着れやん (15)、けえやん

30代：着られへん (3)、着られへんわ、着れない、着れやん (6)、着れやんわ

40代：着られへん、着られない、着れない、着れやな、着れやん (8)、着やれへん、無効回答

50代：着られへん (3)、着られへんわ、着られない、着られやん、着れやな (4)、着れやん (6)、着れやんわ、着やれやん (2)

60代：着られへん (4)、着られやな (2)、着れやな (2)、着れやん、着やれやな

問44の年代別の集計結果

10代：着ることができない、着ることできやん、着るんできやん、着れへん (2)、着れやん (8)、着れやんやん、着れん

20代：着られへん (2)、着られやん (2)、着れない (2)、着れへんやん (2)、着れやん (9)、着れやんのよ、着れやんやん、よー着やん、無効回答

30代：着られへん (3)、着ることができない、着れへん、着れやん (2)、着れやんで、できやん、ようきれやん、よー着やんわ

40代：着られへん、着られやん、着ることができへん、着ることができやん、着れない、着れやな、着れやん (4)、着やれへん、よー着やん (2)、無効回答

50代：着られへん (3)、着られへんわ (2)、着ることできへん、着れない、着れやな (2)、着れやん (6)、着やれやな、着やれやん (2)、よー着やん

60代：着られへん、着られやん、着ることできやん、着れやな (2)、よう着やな、よー着やん (4)

※問43、44は複数回答可であるため、合計の人数に誤差がある。

- (16) 以下は問45の年代別の集計結果である。表記については注8を参照。

10代：あざ (2)、あざになる、にえた (2)、にえる (11)

20代：青タン、青あざ、あざ、あざになった、にえた (2)、にえてる (2)、にえてんなー、にえる (15)

30代：青あざ (2)、にえた、にえチャーる、にえてる、にえる (9)

40代：青あざ、にえた (2)、にえチャーる、にえてる (3)、にえる (7)

50代：青タン、あざ、あざ出てきたわ、にえたんか、にえてる (3)、にえる (12) 60代：
あざ (2)、あざになった、にえた (2)、にえチャう、にえてもたよ、にえてる (2)、に
える

※問45は複数回答可であるため、合計の人数に誤差がある。

- (17) 以下は問46の年代別の集計結果である。表記については注8を参照。

10代：かまれた (3)、かまれる (2)、くわれる、さされた (7)、さされる (4)、血い吸わ
れた 20代：かまれた (5)、かまれる (8)、くわれる、さされた (5)、さされる (3)

30代：かまれた、かまれる、くわれる (2)、さされた (5)、さされる (3)、血い吸われた

40代：かまれた (2)、かまれる (4)、くわれる、さされた (7)、さされる

50代：かまれた (2)、かまれる (5)、くわれる、さされた (8)、さされる (3)

60代：かまれた (3)、さされた (7)

※問46は複数回答可であるため、合計の人数に誤差がある。

- (18) 以下は問47の年代別の集計結果である。表記については注8を参照。

10代：どんけつ、びり (7)、べべ (4)、べべっちい

20代：けつ (2)、どべ (2)、びり (5)、べくそ、べった (5)、べべ (11)

30代：どんべ、びり (3)、べく (2)、べった (2)、べべ (6)

40代：びり (2)、べったくそ、べべ (8)、べく、べった (2)

50代：びり (4)、べった (6)、べったくそ、べべ (6)、べべた、べく

60代：どんけつ (2)、びり (7)、べった (2)、べべ、びりけつ

※問47は複数回答可であるため、合計の人数に誤差がある。

【参考文献】

市島佑起子 (2006)「現代日本語の地域方言とその評価」『日本海総合研究プロジェクト研究報告

4 日本のフィールド言語学—新たな学の創造にむけた富山からの提言—』桂書房pp.315-331

井上史雄 (1997)「ネオ方言と新方言」『西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究』平成
8年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書pp.1-9

——— (2009)「方言の多様性をさぐる」『はじめて学ぶ方言学—ことばの世界をさぐる17章—』

ミネルヴァ書房pp.269-287

井上文子 (2009)「関西における方言と共通語」『言語』38-7大修館書店pp.49-57

株垣実 (1962)「近畿方言総説」『日本列島方言業書⑬近畿方言考①近畿一般』ゆまに書房pp.3-

59

NHK放送文化研究所 (1997)『現代の県民気質—全国県民意識調査—』日本放送出版協会

NHK放送世論調査所 (1979)『日本人の県民性—NHK全国県民意識調査』日本放送出版協会

尾上圭介 (2010)『大阪ことば学』岩波書店

- 鎌田良二（1981）「関西に於ける地方共通語化について」『日本列島方言業書⑬近畿方言考①近畿一般』ゆまに書房pp.309-320
- 岸江信介・中井精一（1999）『大阪～和歌山方言グロットグラム』摂河泉地域史研究会
- 岸江信介・中井精一・鳥谷善史（2001）『大阪府言語地図』近畿方言研究会
- 佐藤和之・米田正人（1999）『どうなる日本のことば——方言と共通語のゆくえ』大修館書店
- 真田信治（1988）「関西中央部の若年層における言語使用の動向」『関西方言の動態に関する社会言語学的研究』文部省科学研究費成果報告書pp.33-46
- 柴田武（1961）『日本の方言』岩波書店
- （1973）「方言の見方・考え方」『覆刻文化庁国語シリーズⅣ 標準語と方言』教育出版pp.261-310
- （1977）「標準語、共通語、方言」『「ことば」シリーズ6 標準語と方言』大蔵省印刷所pp.22-32
- 陣内正敬（2007）「若者世代の方言使用」『方言の機能』岩波書店pp.27-65
- 鈴木敏昭（1990）「方言と標準語をめぐって」『国立国語研究所報告102 場面と場面意識』国立国語研究所pp.115-163
- 高木千恵（2010）「標準語との接触による地域語の変容」『日本語学』29-14明治書院pp.74-83
- （2013）「関西」『日本語ライブラリー 方言学』朝倉書店pp.74-88
- 田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店
- （2012）「「方言」の受けとめかたの移り変わり—全国方言意識調査からみる年齢差・地域差」『日本語学』31-11明治書院pp.16-27
- 田中ゆかり・前田忠彦（2012）「話者分類に基づく地域類型化の試み—全国方言意識調査データを用いた潜在クラス分析による検討」『国立国語研究所論集 第3号』国立国語研究所pp.117-142
- 田中ゆかり・林直樹・前田忠彦・相澤正夫（2016）「1万人調査からみた最新の方言・共通語意識—「2015年全国方言意識Web調査」の報告—」『国立国語研究所論集 第11号』国立国語研究所pp.117-144
- 田原広史（2006）「近畿における方言と共通語の使い分け意識の特徴—方言中心社会の提唱—」『日本海総合研究プロジェクト研究報告4日本のフィールド言語学—新たな学の創造にむけた富山からの提言—』桂書房pp.174-188
- 東條操（1954）『全国方言辞典』東京堂
- 徳川宗賢・真田信治（1986）「和歌山県紀ノ川流域の言語調査報告」『日本列島方言業書⑭近畿方言考②三重県・和歌山県』ゆまに書房pp.496-539
- 友定賢治・陣内正敬（2004）「関西方言・関西的コミュニケーションの広がりが意味するもの—全国6都市調査から」『社会言語科学』7-1 pp.84-91
- 中井精一（1992）「関西共通語化の現状—大阪型待遇表現式の伝播をめぐって—」阪大日本語研究pp.17-32

牧村史陽（1979）『大阪ことば事典』講談社

松丸真大（2010）「方言話者のスタイル切替え」『日本語学』29-14明治書院pp.142-152

村内英一（1962）「和歌山県方言」『日本列島方言業書⑭近畿方言考②三重県・和歌山県』ゆまに書房pp.69-122

———（1978）「和歌山方言の特色」『和歌山の研究 第五巻 方言・民俗篇』清文堂出版株式会社pp.1-36

———（1982）「和歌山県の方言」『講座方言学7—近畿地方の方言—』国書刊行pp.169-193

米田正人（1990）「ことばと社会生活意識」『国立国語研究所報告102 場面と場面意識』国立国語研究所pp.165-187

和歌山県文化振興課（1985）『和歌山県方言調査報告書』

和歌山方言に関するアンケート

※フェイスシートは省略した。

設問 1：以下の問に対し、当てはまるものに○を付けて下さい。

1. 和歌山の地元にいるときに和歌山方言が出るのは恥ずかしいと感じますか。

はい・いいえ

2. 大阪の人と話すときに和歌山方言が出るのは恥ずかしいと感じますか。

はい・いいえ

3. 東京（標準語）の人と話すときに和歌山方言が出るのは恥ずかしいと感じますか。

はい・いいえ

4. あなたは家族との会話で和歌山方言を使っていますか。以下の場面ごとにそれぞれ回答してください。

4-1. 和歌山にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

4-2. 東京にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

4-3. 大阪にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

5. あなたは同じ出身地の友人との会話で和歌山方言を使っていますか。以下の場面ごとにそれぞれ回答してください。

5-1. 和歌山にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

5-2. 東京にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

5-3. 大阪にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

6. あなたは大阪出身の友人と会話をするとしたら和歌山方言を使いますか。以下の場面ごとにそれぞれ回答してください。

6-1. 和歌山にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

6-2. 東京にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

6-3. 大阪にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

7. あなたは東京出身の友人と会話をするとしたら和歌山方言を使いますか。以下の場面ごとにそれぞれ回答してください。

7-1. 和歌山にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

7-2. 東京にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

7-3. 大阪にいる時 [よく使う・使うことがある・使わない]

8. あなたは大阪の人と話していてあなたの使っている単語がおかしいと指摘されたことがありますか。

はい・いいえ

9. あなたは東京の人と話していてあなたの使っている単語がおかしいと指摘されたことがありますか。

はい・いいえ

10. 和歌山のスーパーで買い物をするときに店員などに対して和歌山方言を使いますか。

[よく使う・使うことがある・使わない・わからない]

11. 大阪のスーパーで買い物をするときに店員などに対して和歌山方言を使いますか。

[よく使う・使うことがある・使わない・わからない]

12. 和歌山のデパート（ショッピングモールや百貨店など）で買い物をするときに店員などに対して和歌山方言を使いますか。

[よく使う・使うことがある・使わない・わからない]

13. 大阪のデパート（ショッピングモールや百貨店など）で買い物をするときに店員などに対して和歌山方言を使いますか。

[よく使う・使うことがある・使わない・わからない]

14. あなたは普段の生活において標準語を使っていると思いますか。

[使っていると思う・使っていると思わない・わからない]

15. あなたは「方言」と「標準語」を場面によって使い分けていると思いますか。

[使い分けていると思う・使い分けていないと思う・わからない]

16. あなたは標準語のことが好きですか。

はい・いいえ

16でいいえと答えた方に質問します。

それはなぜですか。①～⑤の中から当てはまるものに○をつけて下さい。（複数回答可）

①きどっている感じがするから ②面白味がないから ③冷たい感じがするから

④ありふれた感じがするから ⑤その他（_____）

17. 標準語を自分が使うことに対して抵抗はありますか。

はい・いいえ

17ではいと答えた方に質問します。

それはなぜですか。①～⑤の中から当てはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

①標準語をうまく話せないから ②きどっている感じがするから

③面白味がないから ④冷たい感じがするから ⑤その他 ()

18. 関西方言は好きですか。

はい・いいえ

18でいいえと答えた方に質問します。

それはなぜですか。①～⑤の中から当てはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

①乱暴な感じがするから ②怖い感じがするから ③田舎っぽい感じがするから

④慣れ慣れしいから ⑤その他 ()

19. 和歌山方言は好きですか。

はい・いいえ

19でいいえと答えた方に質問します。

それはなぜですか。①～⑤の中から当てはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

①乱暴な感じがするから ②田舎っぽい感じがするから ③聞き取りづらいから

④他の方言の方が魅力的だから ⑤その他 ()

20. 和歌山方言を残してゆきたいと思いますか。

はい・いいえ

20でいいえと答えた方に質問します。

それはなぜですか。①～⑤の中から当てはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

①特に愛着はないから ②恥ずかしいから ③時代遅れだから

④標準語を使いたいから ⑤その他 ()

設問2：以下はアクセントについての質問です。アクセントとは単語や音節の音の高低のことです。例えば、標準語で雨のことをアメ}と発音するとき「ア」が高いアクセントです。

当てはまるものに○をつけて下さい。

21. 和歌山の人が話すのと大阪の人が話すのではアクセントは違うと思いますか。

(例：そんなん遠いやん、やばいやん、うるさいな、けえへんやん 等)

はい・いいえ

21ではいと答えた方に質問します。

21-1. 大阪の人と会話をするとしたら和歌山方言のアクセントを使いますか。

はい・いいえ

21-2. 大阪の人と会話をしているとき、自分の話す和歌山方言のアクセントは恥ずかしいと思いますか。

はい・いいえ

22. 東京の人が話すアクセントと和歌山の人が話すアクセントは違うと思いますか。

(例：橋を渡る、花が咲く 等)

はい・いいえ

22ではいと答えた方に質問します。

22－1. 東京の人と会話をするときに和歌山方言のアクセントを使いますか。

はい・いいえ

22－2. 東京の人と会話をしているとき、自分の話す和歌山方言のアクセントは恥ずかしい
と思いますか。

はい・いいえ

23. 大阪の人と話しているときにアクセントがおかしいと指摘されたことがありますか。

はい・いいえ

24. 東京の人と話しているときにアクセントがおかしいと指摘されたことがありますか。

はい・いいえ

設問3：普段の友人との会話を思い出し、以下の間について最もよくあてはまる選択肢に○を付
けてください。

選択肢 { ○：使う / △：聞くことはあるが使わない / ×：聞いたこともない }
--

25. 「これはちょっとおっきすぎら」という言い方を使いますか。

25で使う (○) と答えた方に質問します。

25－1. 「おっきすぎら」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から
使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

25で使わない・聞いたこともない (△・×) と答えた方に質問します。

25－2. これは大きすぎるということをどう言いますか。

26. 「そんなことしたらあかな」という言い方を使いますか。

26で使う (○) と答えた方に質問します。

26－1. 「あかな」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から使うこ
とができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

26で使わない・聞いたこともない (△・×) と答えた方に質問します。

26－2. いけないことをしているとき何と声をかけますか。

27. 人を誘う時に、「一緒に行こら」という言い方を使いますか。

27で使う (○) と答えた方に質問します。

27-1. 「行こら」というのは誰に対して使うことができますか。下のa~fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

27で使わない・聞いたこともない (△・×) と答えた方に質問します。

27-2. 一緒に行こうと誘うときどう言いますか。

28. 「今日は一人で行くでー」という言い方を使いますか。

28で使う (○) と答えた方に質問します。

28-1. 「行くでー」というのは誰に対して使うことができますか。下のa~fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

28で使わない・聞いたこともない (△・×) と答えた方に質問します。

28-2. 今日は一人で行くとき声をかけるときどう言いますか。

29. 「今日は一人で行くねん」という言い方を使いますか。

29で使う (○) と答えた方に質問します。

29-1. 「行くねん」というのは誰に対して使うことができますか。下のa~fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

29で使わない・聞いたこともない (△・×) と答えた方に質問します。

29-2. 今日は一人で行くとき声をかけるときどう言いますか。

30. 「明日は休みやして」という言い方を使いますか。

30で使う (○) と答えた方に質問します。

30-1. 「休みやして」というのは誰に対して使うことができますか。a~fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

30で使わない・聞いたこともない (△・×) と答えた方に質問します。

30-2. 明日は休みだということを何と伝えますか。

31. 「雨降っちゃーら」という言い方をしますか。

31で使う (○) と答えた方に質問します。

31-1. 「雨降っちゃーら」というのは誰に対して使うことができますか。下のa~fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

31で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

31-2. 雨が降っているということをどう伝えますか。

32. 「ええわいしょ」という言い方をしますか。

32で使う（○）と答えた方に質問します。

32-1. 「ええわいしょ」というのは誰に対して使うことができますか。a～fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

32で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

32-2. 相手に良いと同意する時どう言いますか。

33. 「ちょっと面白いもん見せちゃろか」という言い方をしますか。

33で使う（○）と答えた方に質問します。

33-1. 「見せちゃろか」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

33で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

33-1. 面白いものを見せてあげるときどう声をかけますか。

34. 面白いという意味で「おもしろい」と言うことがありますか。

34で使う（○）と答えた方に質問します。

34-1. 「おもしろい」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

34で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

34-2. 面白いということをどう言いますか。

35. 面白いという意味で「おもしろい」と言うことがありますか。

35で使う（○）と答えた方に質問します。

35-1. 「おもしろい」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

35で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

35-2. 面白いということをどう言いますか。

36. 「リンゴの皮をむかずに、皮ごし食べる」という言い方をしますか。

36で使う（○）と答えた方に質問します。

36-1. 「皮ごし食べる」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から
使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

36で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

36-2. リンゴの皮をむかずに食べることをどう言いますか。

37. 「そんなんよーゆわよー」という言い方をしますか。

37で使う（○）と答えた方に質問します。

37-1. 「よーゆわよー」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から
使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

37で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

37-2. そんなことよく言うよということをどう言いますか。

38. 「先生、いま学校にあるかい。」という言い方をしますか。

38で使う（○）と答えた方に質問します。

38-1. 「先生、いま学校にあるかい。」というのは誰に対して使うことができますか。下の
a～fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

38で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

38-2. 先生がいま学校にいるか尋ねるときどう言いますか。

39. (大きい音がして)「今の何の音な？」という言い方をしますか。

39で使う（○）と答えた方に質問します。

39-1. 「今の何の音な？」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中
から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

39で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

39-2. 大きな音がして何の音か尋ねるときどう言いますか。

40. 笑わせることを「わらかす」と言うことがありますか。

40で使う（○）と答えた方に質問します。

40-1. 「わらかす」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から使
うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

40で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

40－2. 笑わせることをどう言いますか。

41. 「だえ（誰）よ？」という言い方を使いますか。

41で使う（○）と答えた方に質問します。

41－1. 「だえよ？」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

41で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

41－2. 誰であるか尋ねるときどう言いますか。

42. 「今日の夕飯何にすら？」という言い方を使いますか。

42で 使う（○）と答えた方に質問します。

42－1. 「何にすら？」というのは誰に対して使うことができますか。下のa～fの中から使うことができる相手すべてに○をしてください。

- a. 親しい年上の人 b. 親しい同級生 c. 親しい年下の人
d. 親しくない年上の人 e. 親しくない同級生 f. 親しくない年下の人

42で使わない・聞いたこともない（△・×）と答えた方に質問します。

42－2. 今日の夕飯は何にするか相談するときどう言いますか。

※以下の43～47は複数回答可です。

43. 「この服は小さいので着ることができない」という場合、「着ることができない」の部分はどう言いますか。

44. 「この子はまだ小さいので一人で服を着ることができない」という場合、「着ることができない」の部分はどう言いますか。

45. 物に足をぶつけたときに紫色になることがあります。この時、これを何と言いますか。

46. 蚊に血を吸われることを蚊にどうされたと言いますか。

47. 運動会のかけっこで最後を走っている人を何と言いますか。

設問4：普段の生活で使っている方言について、またはこのアンケートに回答してみてお気づきの点があれば、ご自由にお書きください。

【付記】

本稿は平成29年度首都大学東京 都市教養学部の卒業論文として提出したものを元にしています。卒業論文の作成、さらに学術論文としての執筆にあたり御指導下さいました浅川哲也先生に心より感謝申し上げます。

（もりにし・かな 首都大学東京 都市教養学部学生）